

六郷特別出張所管内	
人口	男31,848名
	女29,692名
	計61,540名
世帯数	26,570世帯
平成8年9月1日現在	

# 六郷わがまち

発行 わがまち大田  
 六郷地区推進委員会  
 編集 「六郷わがまち」編集委員会  
 事務局 大田区六郷特別出張所  
 〒144 大田区仲六郷2-42-2  
 電話 03(3732)4885(代)

## 特集

〈下〉



本号では、関東大震災の少し前から終戦直後までの思い出ばなしを特集しました。この時代は、わたしたちの住む六郷が、震災を機にのどかな農村から急激に工場の町へと発展し、やがて空襲により壊滅状態となる激動の時代でした。そのあゆみの一端を、これらの実話からご理解いただければ幸いです。

### カワウソのいたずら

正善坊稲荷は白山神社の隣にありますが、西六郷一丁目にあった時分、まわりは松林でね、暗くなるとキツネが出てくるぞ、化かされるぞ、と暗くなるのがこわかった。

そのころ、六郷川にはまだカワウソがいてね、砂利掘りの男衆は午前3時ごろ起きて、登戸の方まで行くんで、船の中でうたたねしていると、寝言をいったり、うなされたりする。仲間がおどしてやると正気にもどってね、またカワウソにやられた、いたずらされていた、なんて話してるのを聞いたことがありますよ。

それからね、今の多摩川二丁目にあった矢口火力発電所へは、蒲田駅からの引込線で午前と午後の2回、石炭を運んでくるんです。その貨車にね、学校の帰りによく乗せてもらいましたね。この発電所は震災で壊れたんですが、東京一桜木町間に電車を走らすためにこしらえた、という話です。

### 川から見た印象

おやじが砂利船の船頭だったから、学校が休みのときなんか、よく船に乗せてもらった。いまの山武ハネウエルの辺り一帯は桃畑でね、川から見た桃の花はそれはそれはきれいだったよ。桃の実を出荷するお盆ごろになると、桃畑の周りをトロッコが走ってたね。箱詰めした桃を運んでたんじゃないかな。

それから古川薬師の少し上手に発電所があってね、5階建てぐらいの高い木造の建物から、太い鉄管が2本出てて、川の水を吸い上げていた。水槽タンクだと思ふんだが、板張りのすきまから水がパンパン落ちてるのが、とても印象に残ってるね。震災前のことだよ。

### 八幡様の子供相撲

あれは震災前だったと思うが、毎年夏場になると六郷神社の境内で、子供相撲が催されたんです。その土俵づくりに、少年たちが大八車を曳いて、高畑の河原から川砂を運んできた。

当時はみんな着物だから、へこ帯をふんどしにしてね、夕方涼しくなってきたから相撲をとるんだが、20人も30人も集まって、そりゃあ、にぎやかだった。

### 署長さんのかいほり

私の小さい時、家の前に大きな池がありましたの。世間では「丸半の池」といってましたが、夏になると、その池のかいほりがあるんです。

蒲田警察の署長さんの五味田秀さんって方(第5代署長、昭和2年6月7日から4年7月26日まで在任)が、とてもひょうきんな方ですね、サイドカーに乗って署員を2〜3人連れてきて、池をすっかり浚ってくれましたの。何が出てくるかと待ってますとね、鯉、鮒、ドジョウなどいろいろでしたが、いちばん多かったのはドジョウで、四斗樽いっぱいといれたこともありましたね。

あの大きな池の水は、どこへ流したんでしょうね。近くに六郷用水の堀があったんで、そこへでも流したんでしょうかね。

### 変電所の池

仲六郷三丁目の六郷変電所は、むかし桂川の変電所とってたんです。山梨県桂川の水力発電所から電力が送られてきたからで、今でも構内に「桂川神社」という小さな祠があります。祭神は木花開耶姫。桂川の水源が富士山だったからでしょう。関東大震災のとき、その赤レ

ンガの建物がつぶれて、職員2人が死んだんです。それで再建された変電所は、屋根はむろん周りもみんなトタン張りの高い建物で、当時は六郷のどこからでも見えたものです。

この変電所には三間道路(今のバス通り)にそって大きな池がありました。危険なので有刺鉄線で囲われてましたが、おもしろいほどテナガエビが釣れるので、子供たちがよく有刺鉄線の間からもぐりこんでは糸を垂れていた。ところが岸辺の土がズルズルと崩れて池に落ちたり、トライに乗って釣りをしていた子が転覆して溺れたり、といった事故が起きて、大騒ぎをしたことがありますね。

この池は戦後埋め立てられ、その跡地にいまは東京計器工業のビルが建っています。

### エンパイヤ

#### 自動車学校

昭和10年ごろまで、仲六郷一丁目41〜42のバス通りに面した東側に、エンパイヤ自動車学校というのがありました。

震災後、自動車が激増しましたね、運転手が足りなくなったため、東京自動車業組合が大正14年(1925)に、陸軍自動車学校の教官を務めた築瀬幸三郎を校長に迎えて、自動車学校をこしらえたんです。そして、これが昭和3年にエンパイヤ自動車学校と改称されたんです。

私の記憶ですと敷地は101・2・5坪、教官は10名程度で、寄宿舎もあり、主としてフォードの運転技術とその学科を教えていたようですね。

ここからは、東京市に合併する昭和7年までに5000人からの卒業生を出してるんですが、皮肉なもので、地元の六郷には当時、トラック25台、乗用車30台しかなかったんですよ。

二・二六事件の朝

今でもはっきり覚えていたが、昭和11年2月。六郷小学校5年生のときである。その日は朝から大雪が降っていて、国道は真っ白になっていた。雪合戦を楽しみしながら、学校への道を歩いていると、六郷橋の方から海軍旗をなびかせた数台のトラックが、完全武装した兵士たちを満載して、品川方面へ雪をけちらしながら疾走していった。子供心にも異常な光景であった。学校へ行くと先生から「大変なことが起きた。陸軍の軍人が反乱を起こして、大臣が何人か殺されたようだ」と聞かされた。二・二六事件である。

大野の渡し

六郷水門の少し下流にあった「大野の渡し」というのは、川崎大師へお参りに行く人たちの便利をはかっていたものでね、船が出るのは大師様の縁日である。毎月20日21日に限られてました。その日は渡し場に赤い旗を立ててね、たしか終戦前まであったんじゃないの。渡し賃は大人5銭、子供3銭だったかな。船は中瀬の棧橋に着きました。向こう岸に小松製作所と新日鉄の工場にはさまれた道路が見えるでしょ。あの入口辺りですよ。

昭和13年秋の水害

昭和13年9月1日の暴風雨で多摩川が大増水したのに、六郷水門が閉まらず、あれよあれよという間に雑色一帯が水浸しになってしまった。大人のへそあたりまでの深さとなり、ボートを出して連絡を取り合う始末。いまの南六郷二丁目団地は、特殊製鋼という大きな会社の跡地に建てられたものだが、その特殊製鋼は水門に近いだけにいち早く水没し、そのうえ倉庫に入った水が化学反応を起こしたとかで、火事になってびっくりした。あとで聞いたうわさでは、水門は閉まらなかったのではなく、閉め忘れられたとか。以来、水門の鍵は南六郷二丁目町会も預かっていて、毎年2月の水神祭には関係者が集まり、水門開閉の調子を見、いざというときに備えている。

上田の馬頭観音

羽田車庫行のバス停に「羽田上田」というのがあります。ここが、むかしから六郷と羽田の境なんですね。馬頭観音はその四つ角にあります。明治末か大正の初めかはっきりしませんが、この付近一帯を農地にしようとして掘ったところ、馬の骨がたくさん出てきたんですね。これについては、中世のころの領主・行方弾正の馬場跡だからという説と、日清戦争のころ軍馬の厩舎があったからだという二つの説があります。昭和40年に福山通運の基礎工事をしたときも、馬の骨が出てきたそうですよ。

現在では毎年5月5日に、日蓮宗十二日講が交通安全の守護神としてお祭りしています。昭和20年4月15日の空襲で丸焼けになると、すぐバラックを建てて住んでたんですが、ひどい食糧不足でね、それを補おうと、おやじが周りの焼け跡に麦をまいたら、それがじつに良くできたんですね。しかしムシロなんて1枚もないから、おやじはすぐ前の国道の上じかに広げて干してましたね。今じゃ考えられないことですが……。

国道での麦干し

私は日本航空羽田支所に所属する乗務通信士として、満洲国の新京で終戦の日を迎え、翌16日午前中、羽田飛行場に帰ってきました。しかし、会社がマッケーサー指令で解散となったため、知人にすすめられて進駐軍の施設で働くことにしました。場所は焼け残った雑色の宮田自転車工場(現・第一製パン)。ここは米軍タンク隊に接収されていた。最初の日はスーツを着て緊張気味で行きましたが、やる仕事といえば食器洗いの湯沸かしや皿洗いといった雑役。それに仲間ときたら入れ墨をしたチンピラや不良少年……。賃金はもらえなかった。その代わりに3度の食事はアメリカ兵と同じもので、朝から5品もつき、帰りには肉やパン、野菜サラダ、缶詰などをくれました。1週に1回だが米もあった。いわば現物給与で、当時、帝大病院に入院中の母に何度かそれを届けて喜ばれましたが、やがて「私のためなら、そんな仕事はやめて」と、心配顔の母からいわれました。

進駐軍施設づとめ

地下足袋で電車に乗って雑色駅までかよい、帰りには酒を飲んで喧嘩をしたり……20年11月中旬、家に帰った私は、4か月前の自分とくらべて、そのすざんだ変わりに声をあげて泣きました。そして地下足袋を新聞紙にくるんで下駄箱の奥にしまし、二度とはきませんでした。

風呂屋の釜場を利用したバラック(南蒲田二丁目28-25)から移った、ジュラルミン(焼け跡を徘徊して拾ってきた)製の家を、ペンキで青く塗り、そこで「青空」という喫茶店を開いた。

焼け跡の喫茶店

空襲で焼けてから、京浜急行の蒲田と雑色の間にあった「出村」という駅は廃駅になってしまいました。東京計器が機能を停止し、利用客が減ったというのが主な理由だったようです。しかし、なんとか駅の復活を実現しようと、昭和23年ごろから東六郷一丁目北端の人たちが運動を始め、何度か京急本社に陳情しましたが、決定したことはくつがえせないといい、駅舎を建ててくれるなら(当時のお金で300~400万円)という返事もありませんでしたが、それはとうてい不可能なことでした。

出村駅復活運動

そこで地元から区議員を送り出して運動に当たってもらおうと、故渡辺才一氏(初代の東一町会長、区議には2回目当选)とともに、いろいろ運動を重ねましたが、昭和26年ごろになると、蒲田も雑色もその界限はすっかり整備されてしまい、出村駅復活運動の熱は徐々に冷めていきました。

★話者のみなさん

- 平野勤五郎(明治45年生) 小関信雄(大正2年生) 土橋まさえ(大正4年生) 小林貞子(大正6年生) 桐生哲哉(大正10年生) 小泉博(大正13年生) 平野順治(大正13年生) 金子賢次(大正14年生) 高橋俊一(大正15年生) 三尾諒次(昭和6年生) 田鍋公祥(昭和6年生) 宮下安由(昭和8年生) <敬称略>

貴重なお話ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

自治会連合会長 石渡豊吉氏逝去

30年の長きにわたって六郷地区自治会連合会長を務められた石渡豊吉氏が、7月13日逝去されました。85歳。謹んで生前のお骨折りに感謝し、ご冥福を祈ります。

第36回少年野球大会

青少対主催の野球大会は8月3日4日、六郷橋緑地のグラウンドで行われ、13チーム参加の小学生の部では南三町会チームが、12チーム参加の中学生の部では仲一町会チームが、それぞれ優勝しました。また女子ソフトボール大会では高畑グリーンガールズが優勝。

六郷の草たち ⑬

秋風にゆれながら、2メートルもある草の先端の蕾が開きはじめると、六郷の河原の草地は、セイ



セイタカアワダチソウ (キク科)

タカアワダチソウの黄金色に埋めつくされてしまいます。北アメリカ原産で、「背高泡立草」の和名どおり、盛りあがった泡のような花の形をしています。

戦後、荒地に増え、花粉アレルギー説もありましたが、今は否定されて心配ありません。

(古屋のり子)